

専門教育入門セミナー

1. 授業の目的（授業のねらい）

専門教育入門セミナーは、学生が学部の特設分野で主体的な学習活動を始めに当たっての基礎的知識・技能を修得すること、専門的学問分野で解決すべき課題を発見し、それを解決するための手法を学ぶことを目的とする。また、所属する学科・課程の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について理解すること、専門分野に係る倫理的配慮について基礎的知識を身につけること、協同学習、口頭発表、ライティングやなどのアクティブラーニングによって学ぶことについても配慮する。

2. 到達目標（育成する資質・能力）

- ① 学問の意義、大学における学習方法、人生設計の指針等を理解する。
- ② 所属する教育プログラムの学問領域について、基礎的・発展的な知識を身につける。
- ③ 解決すべき課題に対して的確に情報を集め、現状を多角的に検討し、説得力のある解決策を導き出すことができる（課題発見力、情報収集力、論理的思考力、課題解決力）。
- ④ 他者との協同作業において、リーダーシップや協調性を発揮し、より高次の結論に至ることができる（リーダーシップ、コミュニケーション力）
- ⑤ 自身の考えを論理的な日本語の文章によって正確に他者に伝えることができる（ライティングスキルをはじめとする日本語のコミュニケーション能力）。
- ⑥ 経験から多くを学ぶことができ、自分自身で知識や考え方を発展させることができる（生涯学習力）。

3. 授業内容・方法（シラバス）

この科目では15回の授業を通じて、下記のユニットで構成される。

- ① 専門分野に係るキャリア形成及び倫理的問題についての講義あるいは、協同学習
- ② 専門分野に係る現代的問題（できれば地域課題）についての講義、グループ学習等による課題発見
- ③ 資料収集、論文や記事の読解、分析等
- ④ 協同学習による解決策の構築とプレゼンテーション
- ⑤ レポート作成、評価

具体的な、授業構成は担当者に委ねる。

4. 成績評価方法

- ① 対象となる課題
 - a. グループワーク
 - b. プレゼンテーション
 - c. レポート
- ② 学習プロセスの評価
グループワークの評価をするかしないかの判断、及び出席状況や平常の学習態度を学習プロセスとして考慮するかしないかの判断は科目担当者に委ねる。
- ③ 協同学習の評価
上記 b～d の評価をグループ単位で評価するか、個人単位で評価するかは科目担当者に委ねる。
- ④ 学生による相互評価
学生が学生に対して行った評価（ピアレビュー）を成績として考慮するかしないかの判断は科目担当者に委ねる。